

中間報告

(報告期間 2018 年 3 月 15 日～2018 年 6 月 29 日)

基本情報

氏名：森 侑子 (国際ロータリー第 2710 地区 2017-18 年度地区補助金奨学生)

派遣クラブ：福山ロータリークラブ

カウンセラー：林 克士 氏

受け入れホストクラブ：DRFC Rotary International District 2360

教育機関：ヨーテボリ大学大学院

(The University of Gothenburg)

専攻分野：教育学研究-国際修士プログラム

(International Master's Programme in Educational Research)

学業面での成果

春semester第2のコース、「Introduction to a research environment – optional course II」を無事に終えることができ、最高ランクの成績を取得することができました。今回のコースでは、研究における“倫理”に焦点を当て講義が展開されました。これまでの歴史の中で、倫理的に問題とされている研究事例はいくつも挙げられます。最も一般的なのは“捏造”です。つまり、研究成果にこだわるあまり、実際の研究結果とは異なる虚偽の結果を発表してしまうのです。他には、研究の内容自体が問題視されるケースもあります。例えば、インタビュー調査で個人の辛い経験を詳細に聞く場合などです。本人が思い出したくないようなトラウマ的な経験を思い出させ、さらに苦しめてしまう可能性があります。講義の中では、実際にこれまで行われた研究事例を参考に、どの点が倫理的に問題なのか、どうすればその問題を防ぐことができたのか、グループでディスカッションを重ねました。私自身がこれまで研究してきた“虐待”という研究テーマは、特に倫理的な問題を持ちやすいセンシティブなテーマなので、修士論文を書く上で生きるであろう学びが非常に多くありました。また、コースの最終課題として、福山市立大学の卒業論文を執筆する際に自身で行った研究を、“倫理”に焦点を当て批判的に考察しました。福山市立大学では体罰に関する調査を大学生対象に行いました。どのような配慮を行ったのか、どのような危険性があったのか、講義の中で学んだ基準を参考に考察することができました。

5月末には、1学年上の学生たちが修士論文の発表を行いました。多くの学生が試験をパスすることができず、卒業時期を延期することになったようです。私のクラスメイトも、入学時は30名以上いましたが試験に合格することができず留年したり、退学する人が多く、現在は20名弱となっています。スウェーデンでの大学院留学期間も折り返し時期となりました。一年後に迫った卒業試験に向けて心を引き締め、さらに学業に励んで参りたいと思います。

受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動

現地のロータリークラブの皆様とは、定期的に交流させて頂いております。

奉仕活動と致しましては、6月から始まっている夏季長期休暇を利用してグアテマラでボランティアをしてきました。53.7% (2011) と貧困率も高く、医療、教育なども整っていないグアテマラでは、社会的弱者である子どもたちに関する問題を多く抱えています。児童虐待への対応制度が未発達であることもその1つです。グアテマラ第2の都市シエラでは、現地で人権に関わる活動をしている弁護士の方に児童養護施設を紹介してもらいました。その施設では、児童虐待などの理由で保護された、2歳から16歳までの子どもたちが共同生活をしています。子どもたちがどのような経験をしてその施設に保護されるに至ったのか経緯を聞くと、人身売買（しかも親によるものが多い）であったり、日本では考えられないようなケースも多く、心が締め付けられました。どのような課題を抱えているのか、どうすればいいのか、私たちに何ができるのか、弁護士の方や現地 NGO の方、児童養護施設の方と毎日のように話し合っていました。また、日本でも報道されたので知っている方もいらっしゃるかも

しれませんが、ちょうど近くの町にいる際に火山が噴火し、100人以上の死者を出しました。各家庭に散らばって避難している被災者の方々に食糧を届けたり、親を失うなどした子どもたちの世話を帰国前の数日間だけではありますが行いました。家族を失い、大切に育ててきた農地を失い、苦しんでいる国民を目の前にしたグアテマラ政府は、残念ながら国民の願う通りにはあまり機能していないようでしたが、親族や近所の人たちで助け合うグアテマラ国民の強さを垣間見たような気がします。



噴火したフエゴ火山付近



避難所に贈った折り紙で作ったメッセージボード

直面した課題、問題点等

以前から課題としてきたスウェーデン語の習得は着実に進歩を感じられるようになってきました。大学院での勉強とは別に、息抜きのようなつもりでこれまで勉強してきましたが、長期休暇中に集中して取り組むことができます。現在一番大きな問題点としては、“住居”が挙げられます。スウェーデンにおける難民問題の代表である住宅難。これまで5年以上にわたって問題視されてきましたが、今もなお改善が見られていません。今住んでいる家庭は8月中旬に離れなければならないので他に住む場所を探していますが、部屋一件に対して100件以上の申し込みがなされているような状況です。友人も多くできたので、助けてもらいながら焦らず継続して探していこうと思います。

今後の課題、目標

今回のグアテマラへの旅行で、スウェーデンの児童福祉がどれだけ豊かで、そのシステムを構築する歴史の中でどれだけ貴重な知識が蓄積されてきたのか。そして、その“豊かさ”が当たり前でない国がどれだけ子どもたちを苦しめているのか目の当たりにしました。あと少しでスウェーデンでの生活も1年が経とうとしていますが、私自身まだまだ勉強が足りない、もっと深くスウェーデンの児童福祉を知りたいという気持ちがあります。あと1年、大学院という場所で可能な限り理解に努めるとともに、卒業後、現場での経験を積めるよう、スウェーデンで就職することも視野に入れながら活動していきたいと思っています。